



土岐市教育研究所
TEL 0572-54-1111 (内373)
FAX 0572-55-6310
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp
No.558
発行責任者 所長 塚本 修
発行日 令和3年7月15日
題 字 山田 恭正 教育長



『どうしたら流れる
試してみよう!』
〜 試行錯誤してイメージを
実現しようとする子ども達〜
撮影 肥田小学校附属幼稚園
日比野 裕子 先生

寛 容

土岐市教育研究所長 塚本 修

先日、学級担任をお持ちの小学校の先生とお話をさせていただく機会がありました。その先生は、担任する1人の児童に対する愛情に満ちあふれた見方や毎日の対応を熱心に話してくださいました。この先生に担任してもらっている子どもたちは幸せなのだろうなあと感じました。

教育は、子どもたちの未来の可能性に対して、日々種をまくものだと思っています。どれだけ待っても芽が出てこなかったり、意図とは違う方向に芽が出て育ったりすることもあります。しかし、私たちはそれを認めることが必要とされます。それが認められるのが教育という場であると考えています。言い換えると、思い通りにいかななくても、私たち教員はそれを寛容し、子どもたちの可能性にかけて日々を過ごしているということです。「何度言ったらわかるんだ!」と言いながらも、期待をもって子どもたちを見ているのです。

1人の子どものことを「この子はどんな子ですか?」と、ある2人の先生に尋ねます。A先生は「この子は全くだらしがありません。時間にはルーズだし、忘れ物も本当に多いです。注意しても全く聞くそぶりも見せません。暖簾に腕押しです。」B先生は「この子は大物です。屈託がなく、何事にも

マイペースです。先生の言うことも全く気にしません。将来は大物になるかもしれません。」同じ子どもを見ていながら、見方は全く逆です。一方は「だらしない」他方は「屈託がない」と見えています。きっとどちらの見方も正しいのだと思います。

しかし、この違いは教育の方向を変えてしまいます。「だらしがありません」から出発する教育は、その是正を目指します。忘れ物もなく、きちんとした生活態度を求めます。「屈託がない」から出発する教育は、その「よさ」を生かして伸ばしていくことに力を入れます。子どもをどう見るか、どう捉えるかによって教育の方向が180度変わるということです。私たちの子ども理解は、それぞれの価値観に基づいています。場合によっては、押しつけになることもあります。自分の価値観と合わない子どもに対して「決めつけた見方」をしていないでしょうか? 「見切って」はいないでしょうか? 子どものありのままの姿をしっかりと受け止め、その未来や可能性を信じて、日々子どもたちに接していくことが大切だと考えます。私たちの目の前にいるのは、見ず知らずの人ではなく、毎日接している子どもたちなのですから…

教育委員になって

土岐市教育委員 酒井 真吾

「ちょっと話があるで、今日時間空いてないやろうか？」

地元の方からの1本の電話が事の始まりでした。普段の仕事では来るはずの無い方からの電話だったので、

「何の用事でみえるんやろうか？」

と、いろいろと考えたことをよく覚えています。

話の内容は、『教育委員を受けてもらえないやろうか？』という内容で、最初は正直、『なぜ私が教育委員？』と思いました。

なぜなら、私が知っている教育委員と言えば、一般的にお偉い方という言い方がいいのかわかりませんが、いわゆる知識の高い方が受ける役職で、私のような者に到底話が来るような役柄ではないと考えていたからです。

しかし、実際に話を聞いてみると、教育委員の中でもいろいろと選出の枠があり、私の選出の理由を聞いたところ、それだったら出来るかもしれないと考え、お受けしました。

私の選出の枠というのが、

「実際に小中学生に子どもがいる方で、教育の現場にも理解がある方」

といったものだったと記憶にあります。

私の出身は駄知町で、小中学校のPTA役員、特に会長職を毎年、同年会で請け負っております。

小学校でPTA役員を4年間経験させていただき、3年目は副会長、4年目は会長を務めさせていただきました。

PTA会長の年には「PTA改革」をスローガンに、役員会の回数やPTA組織の見直しを行い

ました。

中学校でもPTA会長を務めさせていただきました。その時も経験を生かしてPTA改革に取り組みました。

いろいろなことの削減を目的にするのではなく、その本質をしっかりと調査し、多くの方から意見を聞き、自分なりにかみ砕き、判断した結果として、今の時代にあったPTA活動のスリム化を図ることができました。

PTA役員としての5年間の経験で、学校組織に興味をもち、実際に子どもを持つ親の目線での意見が言えればと思っております。

教育委員となり、まだ何もこれといった発言や活動が出来ている訳ではありません。

しかし、焦らず取り繕わず、任命された理由をよく考え、少しずつ土岐市の子ども達の為になる発言が今後できたらと考えています。

何も大それたことを発言しようとは考えておりません。身近にある疑問に思うことや、子ども達と親の言葉の中にこそ、大切な問題が潜んでいると信じております。そういった問題を、私なりの視点で捉え、かみ砕き、発言へと繋げていければ、私なりの責任が果たせると考えております。

最後に、私の教育委員の任期中に、少しでも多くの方に、教育委員の制度を知っていただけるような活動も行っていく必要があると感じております。

土岐市の未来を担う子ども達の為に、少しでも力になれるよう取り組んで参りたいと思っております。

この夏季休業中に、読んだり考えたりしてみませんか

土岐市幼稚園長会長 熊崎 克朗

1 充実の1学期

新型コロナウイルス感染者も少しずつ減り始め、岐阜県に出されていたまん延防止等重点措置は解除された。そして、東京オリンピックの競技の開始・開会式がすぐそこに迫っている。

今年度の1学期には、子供たちは毎日幼稚園に通うことができた。昨年度は、4・5月が休園になってしまい、多くのことを経験させられなかったため、今年度は、子供たちに付けなければならぬ力は何かを考え、より遊びが充実するよう環境づくり等を工夫してきたところである。

2 子供の時に非認知能力の基礎を培う

これまで褒めて育てることが推奨され、子供たちは、親からも教師からも褒められて育ってきている。ただ、今の子供たちは、傷つきやすく、落ち込みやすく、頑張れない子供が増えているようにも感じられる。

ある心理学者が、以下のような実験を行った。

10～12歳の子供に簡単な知能テストをやらせた。テストの終了後、すべての子供たちに、優秀な成績だったことを伝えた。そして、子供たちを3つのグループに振り分けた。

- ①…こんなに成績がよいのは「頭がよい証拠」と言われるグループ
- ②…何も言われないグループ
- ③…こんなに成績がよいのは「一生懸命に頑張ったから」と言われるグループ

そして、その後やってもらふ2種類の課題の特徴を説明し、どちらをやってみたいか尋ねた。

一方は、あまり難しくなくて簡単に解けそうなもの。もう一方は、難しくても簡単に解けそうにないもので、チャレンジしがいのある面白そうな課題であった。

①の「頭のよさ」を褒められた子は、67%の子

が簡単な課題を選んだ。②の子は、簡単な課題と難しい課題を選ぶ子が半々。③の「頑張り」を褒められた子は、8%が簡単な課題を選び、92%の子が難しい課題を選んだということである。

「頑張り」あるいは「努力」を褒められると、成績の結果よりも努力する姿勢にこだわるようになるということである。こうしたことから、我々子供に関わるものは、どんな褒め方が効果的かも考えて褒め方も工夫しなければならない。

次に、以前から日本の子供たちは自尊感情が低いと言われている。ある国際比較調査などから見ると、「自分自身に満足している」「自分には長所がある」という項目で、日本の結果はダントツで低い状況である。これは、子供だけでなく、大人にも言えることで、自尊感情を高めることは日本の大きな課題だと思われる。

この自尊感情の形成に特に関係があると言われるのが、親との関係と言われている。親のゆるぎない愛情が自尊感情の土台である。子供が悪いことをしたときには、厳しく叱りはするが、心の中で子供を信頼しているのである。その愛情に裏打ちされた信頼を子供が感じ、その信頼に応えようとする思いをもつ。そうした経験を重ねることで、子供は自尊感情を高めていくと言われている。しかし、褒めて育てることが推奨され、親が子供を叱れなくなり、教師も厳しく叱れなくなったりしている。こうした大人の不安定さが、子供の自尊感情を育むことを妨げているのかもしれない。

最近、「非認知能力」に関する本を何冊か読んでみて、印象に残ったところの一部を書き出してみた。この夏季休業中は、コロナ禍であり出歩けないと思う。自己研鑽ということで、幼児教育に関わる人には、少し時間を見つけて、これからの幼稚園教育について考えてみてほしい。

学力向上推進委員会 今年度の実践の方向

学力向上推進リーダー 下石小学校 教頭 松原敦也

1 今年度の重点

「土岐市スタンダード授業」
令和3年度の重点 **継続**

- ① 広がり・深まりのある終末の姿の具体化
⇒何ができれば（わかれば）よいのか
- ② 「何を」「どう」すればよいか
明確にわかる課題設定
⇒課題は位置づいているか
⇒終末の姿に向かうものとなっているか

令和元年度、「土岐市スタンダード授業」を作成しました。そこには、主体的・対話的で深い学びを柱の一つとした新学習指導要領への移行の中で、土岐市内のすべての先生方に授業力を高めてほしいという願いがあります。

ベテランの先生から若い先生への授業の継承が自然となされていくということが、徐々に難しくなってきた今日です。授業力格差も出てくる中、授業を構成していく上でのよりどころとなるものとして、各学校で活用していただきたいもの、それが「土岐市スタンダード授業」です。

令和2年度は、この「スタンダード授業」の中から次の二つを重点としました。

- ① 広がり・深まりのある終末の姿の具体化
- ② 「何を」「どう」すればよいか
明確にわかる課題設定

この二つの重点について、市内全ての先生方に一実践をしていただき、市内の共有フォルダに財産として蓄積できたことは、令和2年度の大きな成果です。コロナ禍の中、ご協力ありがとうございました。

企画委員会では、昨年度の財産をもとに、令和3年度もこの二つの重点を継続したいと考えています。

継続の理由は2つです。

一つ目は、財産のさらなる蓄積です。

昨年度、共有フォルダに入れていただいた先生方の実践は、土岐市の財産です。さらに多くの実践をこの共有フォルダに蓄積することで、授業に迷われている先生が参考にでき日々の授業改善につながるものになればと考えています。

二つ目は、ICTの効果的な活用です。

現在のコロナ禍の状況は、GIGAスクール構想の推進に拍車をかけました。土岐市においても、今年度よりICT推進委員会が発足し、その活用は避けては通れないものとなっています。もちろん、ICTを活用して情報活用能力を身に付けたり、教科のねらいに効果的に迫ったりしていくことは素晴らしいことです。

ただ、一方で危惧しているのは、ICTの活用を急ぐあまり活用すること自体が目的化してしまわないかということです。ICTの活用はあくまでも手段の1つにすぎません。その手段が目的化してしまわないために、この二つの重点を今年度も継続したいと考えました。

2 広がり・深まりのある終末の姿の具体化

私たちは授業の中で、次に示すような様々な手立てを打ちます。

- ・本時のねらいに迫る深めの発問や効果的なICTの活用
- ・グループ交流・ペア交流等の形態の工夫
- ・ICTの活用による視覚化
- ・ハンドサインをいかした発言の組織化
- ・本時の手立てとなる既習事項の振り返り
- ・学習状況の見届けによる実態把握 など

これらは、全て子どもたちがねらいに到達することを目的として行います。しかし、「できた!」「わかった!」の中身が曖昧だったり、複数の出口があったりすると、手立ては生きません。手立てのための手立てとなってしまいます。

手立てがより具体的なものになっていけば出口に向かう効果的な手段となります。授業を思い描くとき、まずは1時間かけて追究するにふさわしい出口の姿を明確に思い描くことから始めていきたいです。

出口の姿の明確化について、例えば国語の授業で言えば、

「次の場面は、主人公の悲しみをおさえればいいな。」と漠然と思い描くのではなく、

「次の場面は、主人公の悲しみをおさえるぞ、そのためには「○○」という表現への着目は外せない。『○○』という表現がある場合とない場合を比べさせて、『○○』という表現には～な意味が含まれていることに気づかせたい。」というように「どの表現に着目し、どのような言語の分析を行い、何に気づけたらいいのか。」など、できる限り出口の姿を具体化したいです。

○○（活動・方途）を通して、
△△（新たな考え方・知識・技能）に
気付き・分かり、
□□する（付けたい力）ことができる。

これは、指導案のねらいを書く際によく使われる基本形です。この基本形を使いながら、毎時間の授業の出口の姿を思い描くのも1つの方法だと考えます。

3 「何を」「どう」すればよいかを明確にわかる課題の設定

出口の姿を明確にしても、課題が子どもに示されていないかったり、曖昧だったり、課題が出口の姿とは違う方向に向いていたりすると、子どもは何をすればいいのかがわからず混乱します。出口に向かって設定した指導者の手立ても、ぶれてしまいます。「広がり・深まりのある終末の姿」に子どもの意識が向かうような課題を設定したいです。

昨年度「教育とき」で紹介したお二人の先生の課題から考えてみます。

○駄知中 富井先生

3年保健体育「バレーボール」

「3本返球率を40%以上に上げるために、どんな動き（身体の向き、足の動き）、どんなボールの出し方をするとよいだろうか。」

○濃南小 伊藤先生

3年算数「小数」

「0.1のいくつ分を使って、小数の計算のしかたを説明しよう。」

この二つの課題には、「なにができればいいのか」（下線部分）と、「追究の視点・方途」（波線部分）があります。各教科・教材の特性や子どもの発達段階によって、課題の文言に全てを詰め込むのが難しい場合もあります。このような場合は、口頭で教師が説明をしたり、追究の方途を全体で確認したりするなど、補足の一手を打てばよいです。

大切なことは、導入の段階で子どもに「今日は○○ができればいいんだな。」
「○○について考えればできそうだ。」
という意識をもたせることです。

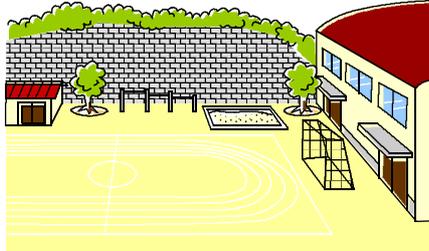
昨年度の多くの実践を、今後の授業改善に活用しながら、各学校でさらなる実践を積み重ねていただきたいと考えています。

附属幼稚園・こども園 小学校・中学校

新規採用職員紹介



(敬称略)



◆泉小附属幼稚園◆

佐藤 ちひろ

青森県の弘前市から参りました。初めての土地で初めてのクラス担任ということで不安なこともあります。毎日いろいろな発見や「できたよ」と元気よく教えてくれる子供たち。毎日成長していく姿に感動し、パワーをもらいながら楽しく過ごしています。そんな子供たちの成長を支えられるよう、みんなの言葉に耳を傾け、そして、子供たちと一緒に成長していけるように頑張ります。よろしくお願いします。



◆西部こども園◆

岩井 帆乃佳

他県で七年保育園に勤め、四月から西部こども園への勤務となりました。新しい環境に期待と不安がありましたが、子どもたちの笑顔に癒されて、毎日楽しく過ごしています。4月は泣いていた子ども今では笑顔で登園してくれるようになりました。好奇心旺盛で元気いっぱいな姿や一生懸命やってみようとする姿に嬉しく感じ、私も学ぶことがたくさんあります。子ども達と共に自分自身も成長していけたらと思います。



◆濃南こども園◆

加藤 百華

自分が育った土岐市で、保育士になる夢を叶えることができたことを大変嬉しく思います。不安なことも沢山ありますが、周りの先生方や子どもたちから学ぶことが多くあり、刺激的な毎日を過ごしております。「ももかせんせい！」と、笑顔で駆け寄ってきてくれる子ども達の姿がなにより嬉しく、可愛くて仕方ありません。社会人としての責任、自覚を持ち、愛情いっぱい子どもたちと関わっていきたいです。よろしくお願い致します。



◆土岐津小学校◆

安藤 彩

「未来は子どもたちだ！」この言葉を知ったときの感動は今でも覚えています。今、私の目の前にいる子どもたちはまさに未来。その子どもたちとともに過ごし、教え導く仕事に就いたことは、未来を創る一部なのだ！と責任・希望を強く感じる日々です。自分ができることは限られていますが、心を込めて、的確な時に的確な手段を選び、手を差し伸べられるよう、私自身が日々勉強！を心に過します。よろしくお願いします。



◆妻木小学校◆

瀬戸口 貴光

羽島市で講師を経験して、新規採用になりました。歴史が大好きな私は、明智光秀の奥方、熙子のゆかりの地である妻木に務められることに喜びを感じました。近くに史跡もあり、勤務する前からワクワク、ドキドキしていました。妻木小学校の子は、元気な挨拶ができたり、自分の役割を果たそうとしたりして前向きです。そのような子とともに自分の力を高めたいと思います。子どもに負けないように元気いっぱい職務を全うしたいと思います。



◆肥田小学校◆

竹澤 雅枝

他県で十数年間教員をしていました。昨年度、20年ぶりに地元である土岐に戻り、子どもの頃には気付かなかった土岐の素晴らしさを感じています。特色ある土岐の教育に携われることを誇りに思います。肥田小学校の子どもたちは素直でやる気に満ちていて、できたことを嬉しそうに教えに来てくれます。「できる」喜びをたくさん感じられるように、一人一人への声かけをしっかりと行い、日々研鑽を積んでいきたいと思っています。

**◆泉小学校◆**

下野 里子

泉小学校に赴任して、3か月が経ちました。4月当初は不安でいっぱいでしたが、周りの先生方の温かさやご指導のおかげで、今は子ども一人一人と向かい合うことの大切さを実感し、子どもに寄り添える教師になりたいと思うようになりました。子どもたちの笑顔がより輝くよう、そして確かな学力を育むため、教師として成長できるよう、日々精進し、努力を重ねていきたいです。

**◆駄知中学校◆**

山田 陸生

私の地元は、岐阜市です。駄知中学校に赴任することになり、初めて東濃に深く関わりました。自然が豊かで、暮らしやすい街だと感じています。土岐市に来てたくさんの出会いがありましたが、どの方も温かく迎えてくださり、安心して教員生活のスタートを切れました。初任者として、吸収する一年にします。多くの経験をし、多様な生徒や教員の方々の考え方を取り入れ、一つ一つ学んでいきたいと考えています。よろしくお願ひします。

**◆肥田中学校◆**

今井 亜沙弥

他県の高校で1年教員を経験し、8年ぶりに地元である岐阜県に帰ってきました。初めての土岐市、初めての学級担任で不安もありましたが、温かく優しい先生方と素直で元気な子どもたちのおかげで、充実した毎日を過ごしています。知識や正解を与える人になるのではなく、子どもと共に学び、成長する姿勢を大切にしていきたいです。何事も失敗を恐れることなく一生懸命に挑戦する1年間にしていきます。よろしくお願ひします。

**土岐市初任者研修****【研修Ⅰ】** 7月21日(水)

「救急救命研修(該当者)」

- ・救急救命に関する知識・技能や応急手当の仕方を学ぶ。

**【研修Ⅱ】** 8月20日(金)

「地域理解に関する研修」

- ・美濃焼等に関わる土岐市の施設において体験的な研修を行う。

【研修Ⅲ】 12月7日(火)

校種間連携に関する研修

- ・保育園、幼稚園にて、保育士、幼稚園教諭の体験的な研修を行う。

今年度、土岐市に着任した新規採用の先生は9名です。大学を卒業して初めて教師として歩み始めた先生、何年か経験を積み重ねて採用された先生。コロナ禍の中、3か月が経ちました。初任者研修に加えて、園や学校の同僚性も先生方の教員としての力を高めていきます。

各園・学校における新規採用の先生方へのサポートをよろしくお願ひします!



「校長先生、ぼくがやります。」

肥田小学校 校長 梅村 玉祈

初夏の恒例行事である「プール掃除」が職員と子供たちの協力のもと、2年ぶりに行われました。コロナ感染予防を期す中での作業となり、子供たちにとっては、待ちに待った喜びを感じつつも、例年以上に緊張感を伴う清掃になったようでした。

作業の途中、A君が何か困った様子で私のところにやってきました。担当場所であるプールサイドの水流が滞ったり、溢れたりしていたのです。どうやら長い間に、排水溝に落ち葉やごみが詰まっているようです。

そこで私はA君に、水が流れる方向や排水溝の位置、溝を塞ぐ落ち葉の堆積など、うまく流れない原因を丁寧に説明しました。その後で私が手を伸ばして除去しようとしたその時、彼はとっさに私を制してこう言ったのです。

「校長先生、ぼくがやります。」

「ぼくたちは手袋をしているから」という相手を思いやる言葉まで添えてくれました。てきぱきと排水溝の落ち葉を取り除くと、水が勢いよく流れ始めたのです。一緒に作業をしていた仲間たちと無邪気に喜び合う姿を見て、その誠実さとたくましさに胸が一杯になった素敵な一幕でした。

本校にはA君のように自分で判断し行動できる子供が増えつつあると感じます。大切なことは、私たち大人が彼らの自発性やねうちある言動を見逃すことなく、積極的に価値付けること。このことによって、肥田っ子たちの魅力がますます広がっていくものと確信しています。

掲 示 板

令和3年度 東濃地区教育推進協議会教育実践研究奨励賞 「実践記録、教材、教具の部」の募集について

【応募資格】

- ・東濃教育事務所管内の教職員「校長、教頭、教諭（講師、養護助教諭等を含む）、養護教諭、事務職員、栄養教諭・学校栄養職員」

【応募方法】

- ・前年度及び該当年度に作成または使用したもので、未発表のものを応募する。

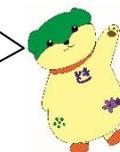
【応募方法】

- ・小学校の部 9月28日（火） ※小中共に、学校単位で「出品一覧」を教育研究所に
- ・中学校の部 10月29日（金） メールで提出する。

【展示・審査】

- ・東教推研究発表会・実践交流会で展示、審査する。
小学校：10月26日（火） 多治見市立精華小学校
中学校：11月30日（火） 恵那市立恵那西中学校

多くの先生の応募を、お待ちしております！



編集 後記

組織のトップが変わると組織に新たな風が吹きます。組織の長の方でなくても、職員の人事異動により、学校の空気が変わります。今号は6、7頁に初任者の方を紹介しています。3か月が過ぎて、園・学校生活に慣れてきた頃ではないでしょうか。新鮮な気持ちで新しい風を吹かせてほしいものと思います。